

# 2017年度アフリカビジネス実証事業実施報告書（要旨）

## エチオピア「切花包装資材等」

### 第1章 事業概要

#### 1.1 目的

- (1) 駐在員事務所設立に向けての現地情報収集と調査
- (2) 将来のスリーブ工場建設に向けての現地情報収集と調査
- (3) エチオピア産バラの輸入拡大
- (4) 船便輸送による切花輸入テストの実施及び同輸送による品質状態の調査

#### 1.2 背景

インパック株式会社は、エチオピア国内において、当社主力商品であるフラワースリーブ（切花包装資材）を対象として、2016年度アフリカビジネス実証事業の採択を受け、同国に於ける駐在員事務所の設立、販売（輸出）戦略の構築、スリーブ現地生産体制の構築、現地フラワースリーブ工場の設立方法、切花の船輸送の実証を行う予定であった。しかし2016年に発生した暴動、その後の非常事態宣言の発令により渡航が困難になり、工場設立の方法、船輸送などの実証に至る情報収集等の活動を十分行うことができなかった。これらの活動結果を踏まえ、2017年度は2016年度の実証事業の継続と、過去の実証事業により実現したバラの日本への輸出の拡大と品質向上の解決策を主たる対象として実証事業を行った。

エチオピアで使用されるフラワースリーブやゴム等の結束用資材、梱包材料類は、ほとんどが輸入品であり、品質、価格競争力、及び納期の面で課題が多い。当社は同国でそれら資材の生産工場設立を目指し、引き続き現地需要並びに調達・物流面での実証のほか、駐在員事務所と工場建設に向けての実証も行うこととした。併せて輸入切花の輸送コスト削減を図るべく、航空便輸送からジブチ経由の船便輸送への切り替えに向けたコンテナ輸送テストを実施した。

エチオピアでは、切花が重点産業の一つに掲げられており、切花包装資材市場の伸びは、2ケタ成長が続く同国の更なる経済発展の牽引力となると見込まれる。高品質なエチオピアの花に、MPS認定（花き産業総合認証制度）工場も有する当社（花束用スリーブの日本国内シェア50%超、オランダ製花束加工関連機器の同シェア90%）の技術と経験を融合させることで、現地技術水準の底上げ、商品価値の向上、新規雇用の創出、賃金水準の上昇、そして欧州・アジア・米国等広範な海外市場への輸出促進に寄与するものと考えている。日本国内の切花需要は長期的に減少傾向にあるが、手ごろで高品質なエチオピアの切花輸入を通じ、潜在的な国内需要の喚起と花業界の活性化も期待できる。

#### 1.3 自社について

当社のコアビジネスは、フラワースリーブ（花の袋）の製造販売と切花の加工機械の輸入販売である。8年前から生花店の経営を始め、ブーケメーカーとしてスーパーマーケット（SM）やホームセンター（HC）への販売を行っている。また、2015年度の実証事業から始めたエチオピア産バラの輸入販売は順調に増加しており、SM、HC、ブーケメーカーに対して直接販売を行っている。

#### 1.4 海外事業戦略全体におけるアフリカ事業の位置づけ

エチオピアでは、切花の輸出は主要産業の1つであり、そのほとんどは欧州へ輸出されているが、

昨今、日本を始めとするアジア市場への展開が注目されている。

切花の輸出拡大を図るには花の品質向上は必須であり、そのためには包装材・梱包材や輸出方法の改善が肝要である。当社が現地でスリーブを生産し、梱包材料の供給を行うことによって、同国の輸出基盤の整備にもつながる。

また、バラの国内生産量が減少傾向にある中、エチオピア産バラの日本への輸入拡大により、日本の生花市場におけるバラの需要を喚起するとともに、花業界の活性化も期待できる。

## 1.5 ビジネスパートナーについて

現地ビジネスパートナー

生産農園：Q社、H社、E社 等

花き品質管理専門業者：F社

## 1.6 該当分野・製品・サービスについて

### ①【エチオピア産切花の輸入ビジネスについて】

現在、我が国の切花業界の生産現場では、生産者の高齢化、人手不足などの課題に直面している。切り花の生産自給率は、足元在では約80～85%となっているが、こうした背景により今後の自給率低下は避けられない。さらに、販売面においても、市街の生花店の店舗数は減少の一途を辿っている。他方で、全国のスーパーなどのチェーンストアでは、花売場を拡大させており、今後は2倍、3倍の売上を見込んでいの中で、海外からの調達を考えている企業も多くみられる。また、国内外の生産規模を比較すると、日本の生産者あたりの生産面積は平均3アールにとどまるが、アフリカや南米では5ヘクタールは当たり前の規模となっている。スケールメリットを踏まえると、特に大量調達品に関しては、海外からの調達拡大が予想され、近い将来、エチオピアをはじめアフリカで生産された切花も、日常的に日本のスーパーの店頭と並ぶようになると考えられる。

### ②【輸入切り花の品質管理の徹底による、高付加価値化について】

エチオピアから輸入する全ての切り花について、花き品質管理専門業者であるF社による品質管理を行う。これにより、当社が日本で初めて輸入するエチオピアの切花についても、付加価値の高い商品としてPRすることができ、販売価格面でも有利に働くと考えられる。

### ③【切り花のパッケージ化(産地パック)ビジネスについて】

当社では花束加工関連機器(オランダ製)の輸出入・販売業務を行っている。日本国内での販売シェアは90%を占めており、購入者のニーズに合わせ機械のカスタマイズ、据付などを行う技術力も持ち合わせている。エチオピア産切花の輸入においては、単に切花を安価に輸入するのではなく、当社が取扱う機械を導入し、最終商品(ブーケ)として付加価値を高め日本へ輸入するべく、体制の構築を検討していく。また、本取り組みは、エチオピアの農業政策ならびに工業政策にも貢献できると考えている。

### ④【アフリカを輸出ハブ拠点とした欧州、アジアへの販売展開】

①、②、③のビジネスが軌道にのった際には、エチオピアに現地法人ないしは駐在員事務所などの拠点設置の必要性を認識。将来的には、生産拠点や販売拠点の設立も視野に入れている。上述の通り、当社

は花束加工関連機器を取り扱っており、またフラワースリーブ(花の袋)の製造を手掛け、日本国内販売では50%という高いシェアを誇る。優れた生産素材であるエチオピア産切花と、当社の技術力との融合により、巨大マーケットである欧州、アジア市場でも十分に競争力を有する商品を提供できると考えている。

## 第2章 実証項目とスケジュール

### 2.1 実証項目（実証項目ごとの説明）

#### 実証項目1 【駐在員事務所の開設にかかる課題抽出、解決策の構築】

駐在員事務所開設と長期滞在のための拠点作りにかかる手続きを通じて課題を抽出、解決策を見出して開設の準備を行う。

#### 実証項目2 【スリーブ需要調査と生産・販売・輸出戦略の構築】

エチオピア国内の切花の生産量とスリーブの流通に関して調査し、さらに花卉産業に関する資料の収集・分析を通じてスリーブ生産に向けた課題を抽出、解決策を見出し、生産規模の確立と販売戦略を構築する。

#### 実証項目3 【工場設立準備、原材料調達の調査】

スリーブ工場建設計画の作成及びスリーブ原料調達先の調査を行い、将来のスリーブ生産工場設立にかかる課題を抽出し、解決策を見出す。

#### 実証項目4 【バラの輸入販売拡大にかかる課題抽出、解決策の構築】

エチオピア新規農園獲得や日本の新規販売先の開拓といったバラの輸入販売の規模拡大にかかる課題を抽出し、解決策を見出す。

#### 実証項目5 【切花の船便輸送にかかる課題抽出、解決策の構築】

切花の船便輸送にかかる課題（品質管理、物流体制等）を抽出し、解決策を見出す。また、コンテナによる船便輸送テストを実施する。

#### 実証項目6 【切花の品質向上にかかる課題抽出、解決策の構築】

切花の品質向上にかかる課題（燻蒸処理の多さ等）を抽出し、解決策を見出す。

### 2.2 事業実施スケジュール

事業期間 (実証中)	5月	・第1回現地調査の準備
	6月	・第1回現地調査の実施 工業団地・プラスチック工場の調査 各地バラ農園訪問 エチオピア投資ミッション参加

	7月	・バラ船便輸送テスト実施に向けての活動 輸入業者への見積り・調査依頼
	8月	・バラ船便輸送テストの計画、スケジュール作成
	9月	・エチオピアインターンシップ派遣準備
	10月	・エチオピアインターンシップ派遣開始 派遣先：生産農園 Y 社・実施期間：10月1日～11月15日
	11月	・インターンシップ派遣終了 ・バラ海上輸送テスト実施に向けての船便とコンテナ手配依頼、バラ農園に出荷依頼、花き品質管理専門業者の F 社に出荷立会いと指導の依頼 ・第2回現地調査の準備
	12月	・第2回現地調査の実施 各地バラ農園訪問 バラ船便輸送テストのバラ出荷農園の状況確認 ・バラ船便輸送テスト実施
	1月	・バラ船便輸送テストのコンテナ到着
	2月	・バラ船便輸送テストの結果検証 ・報告書の作成
事業終了、報告会開催、報告書まとめ		

### 第3章 実証項目ごとの検証方法と結果と考察（課題とそれらをクリアするための対策や提案）

#### 3.1 実証項目の結果まとめ(一覧表)

実証項目	結果	課題
実証項目 1 駐在員事務所の開設にかか る課題抽出、解決策の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、駐在員事務所の開設にはまだ時間を要する。</li> <li>・JETRO アディスアベバ事務所の貸しスペースを今後の出張の際に使用させて頂く。</li> <li>・インターンシップで現地に約1ヶ月半滞在。文化、習慣、日常生活の経験を一定程度獲得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐在員事務所の開設に向けてさらなる情報収集が必要。</li> </ul>
実証項目 2 スリーブ需要調査と生産・販売・輸出戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回出張では訪問先農園のスリーブ使用状況を確認出来た。</li> <li>・第2回出張は使用状況を確認するに至</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も各地農園を訪問して需要調査を継続する。</li> <li>・エチオピア園芸協会（EHPEA）に</li> </ul>

略の構築	らなかった。	花の生産量・輸出量の統計データの提供を依頼する。
実証項目 3 工場設立準備、原材料調達の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業団地の状況視察（第1回出張）： ボレレミ工業団地はフェーズ1で11工場が稼働中。フェーズ2は今年の完成に向けて造成中。 前回視察したキリント工業団地は薬品メーカー専用の工業団地となる予定。 南部のハワッサ工業団地のフェーズ1は入居率が100%に到達。アディスアベバとの間に高速道路と鉄道を建設予定。</li> <li>・限定プラスチック工場視察（第1回出張）： アディスアベバ市内の2工場を視察。原料は台湾、中東、タイから輸入。 製造機械、印刷機とインクは台湾から輸入。 外国企業が国内販売を目的とする場合、原料輸入の関税は非常に高くなるなどの情報を得る。また製品が100%輸出の場合であれば、政府は原料輸入に対して減免措置をするとの事。</li> <li>・第2回出張では工場建設、原料輸入に関する情報収集を行えなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業団地の造成は急ピッチで進んでおり、入居する工場も多く既に入居率が100%に到達した団地もある。</li> <li>・エチオピア政府は国内産業保護を目的として海外企業の国内販売に対して強い規制をかけている。現状輸出に対してのみ参入を認めている状態である。</li> <li>・今後も工業団地、現地工場の視察を続けて情報収集を行う必要がある。</li> </ul>
実証項目 4 バラの輸入販売拡大にかかる課題抽出、解決策の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度の輸入本数約39万本に対して、2017年度は12月の時点で100万本を突破した。</li> <li>・日本の量販店はエチオピア産のバラに興味を持っており、また一般消費者のエチオピア産バラに対する認知度も高まりつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エチオピア国内の民族間衝突などの治安悪化を受け、一度出荷が出来ない状況が発生した。今後複数の産地に仕入先を確保して調達リスクの回避に努める必要あり。</li> </ul>
実証項目 5 切花の船便輸送にかかる課題抽出、解決策の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月下旬にバラの海上輸送テストを実施： 12月20日、H社より120箱・5万本のバラを20フィートのリーファーコンテナで出荷。24日にジブチより出港。1月22</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地に乙仲が存在しないなど通関業者の関与が限られ、コンテナの手配遅れが発生した。今後同様の輸送を行う場合には、現地への関与の徹底と余裕を持った輸送スケジュール</li> </ul>

	<p>日横浜到着。25日にインパック加工場到着、26日から2月4日まで品質テストを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送テストのバラの状態： 到着した5万本の内、約6千本を廃棄処分。残りのバラも大半は葉が乾燥・劣化した状態にあり、個人的な鑑賞は可能だが商品としての販売は不可能な状態だった。得意先へのサンプル配布を断念し、従業員や関係先への配布に変更。</li> <li>・ジブチーエチオピア鉄道は2018年1月の始めに営業運転を開始。1日おきに輸入と輸出の貨物を輸送している模様。</li> </ul>	<p>ルが必要になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテナ到着遅れで花き品質管理専門業者のF社担当者の滞在期限を迎えて出荷前に帰国してしまったため、作業に対する指導が不十分だった。</li> <li>・今回のジブチから日本への船便輸送コストは、欧州から日本への同コストと比較すると約2倍となった。</li> <li>・輸送中の温度・湿度管理の改善と徹底が必要。</li> </ul>
<p>実証項目6 切花の品質向上にかかる課題抽出、解決策の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バラの船便輸送テストを通じ、海上輸送を経たバラの品質を確認したところ、全体の1割のバラが廃棄せざるを得ない状況であり、そのほか大部分のバラに葉の乾燥が見られた。花瓶に移し替えたものは咲き切ったが、商品としての価値は無かった。</li> <li>・輸送テストを経たバラの一部に対し、フラワーウォッチジャパンの試験室で日持ち検査を実施したところ、種類によって日持ちするものとししないものに分かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテナ輸送による劣化を防ぐ方法としては、コンテナ内部の温度・湿度管理の徹底の他、出荷前の包装資材や梱包材、積み込み方法の改善などが挙げられる。この他、プレクーリングを行う設備の導入がある。廃棄の原因となったボトリチス菌を殺菌する薬剤は、現状より安全な薬剤の開発が求められる。</li> </ul>

### 3.2 実証項目1 駐在員事務所の開設にかかる課題抽出、解決策の構築

#### (1) 検証方法、活動内容

- ・現地調査と現地関係機関との情報収集。
- ・エチオピアインターンシップ派遣による現地滞在（10月1日～11月14日）。

#### (2) 結果

- ・駐在員事務所開設にはまだ時間を要すると判断した。今後出張を繰り返しながら事務所設立に向けての情報収集を継続する。
- ・現地滞在を経験し、文化、生活習慣、気候風土を理解することが出来た。滞在期間中、体調を大きく崩す事態には至らなかった。

### (3) 考察

- ・現地情勢の変化により事務所の開設、長期滞在の居住先の選定にも影響があるので、JETRO、JICA 等団体との連絡を密接に行う必要がある。
- ・体調は崩さなかったが、滞在先はベルギー人が経営する農園 Y 社であり、農園外と比較して衛生状態が良好だったので、清潔を保つことが長期滞在のポイントと改めて認識した。

## 3.3 実証項目 2 スリーブ需要調査と生産・販売・輸出戦略の構築

### (1) 検証方法、活動内容

- ・各地農園を訪問しスリーブの使用状況を確認。
- ・在日本エチオピア大使館よりエチオピア国内の農園のリストを取得。

### (2) 結果

- ・第 1 回出張で農園 A 社、Q 社、H 社に訪問し、生産数量とスリーブの使用数量を確認した。しかし第 2 回出張では新規仕入先候補の農園訪問と、バラの船便輸送テストの準備を優先したため、具体的な数量を把握するには至らなかった。
- ・スリーブ使用数量の調査結果：

#### 1. B 社（エクアドル資本）

バラ用スリーブ約 70 万枚／年，カスミソウ用スリーブ約 50 万枚／年

※エクアドルから輸入

#### 2. H 社（オランダ資本）

バラ用スリーブ約 300 万枚／年

※台湾から輸入

### (3) 考察

- ・より正確な数量の把握のためには、バラの新規仕入先獲得に向けた営業活動も兼ねつつ、複数の農園を訪問し、ヒアリングを行う必要がある。
- ・このほか、エチオピア園芸協会（EHPEA）のような花きの関連団体より、生産量など最新のデータを取得する必要性を確認した。

## 3.4 実証項目 3 工場設立準備、原材料調達の調査

### (1) 検証方法、活動内容

- ・現地工業団地（ボレレミ工業団地・ハワッサ工業団地）の視察。
- ・アディスアベバ市内のプラスチック工場の視察と情報収集。

### (2) 結果

- ・第 1 回出張で各地の工業団地を視察した。ボレレミ工業団地・フェーズ 1 は停電が多かったが、変電所の建設によって停電が発生しなくなっていた。フェーズ 2 は 2018 年の完成を目指して造成中。キリント工業団地は薬品メーカー専用の工業団地として造成中だった。南部のハワッ

サ工業団地はフェーズ 1 の入居率が 100%に到達。敷地内に浄水所・消防署・居住施設があり、現在発電施設を建設中。また鉄道と高速道路を建設する計画あり。

- ・アディスアベバ市内のプラスチック製品工場 C 社と N 社の 2 箇所を視察し、原料や設備の調達および輸入状況等についてヒアリングを行った。C 社では、PE、BOPP、PET、PP、LD などの原料を、台湾、中東、タイから輸入しており、機械設備や印刷機、印刷用インクは台湾から輸入していた。また、N 社によると、エチオピアでは外資工場が国内販売を目的として原料を輸入する場合には高い輸入関税が課されるが、100%海外への輸出を目的とした場合であれば、輸入関税の減税措置を享受できるとの由であった。

### (3) 考察

- ・エチオピア政府は、外国資本の参入を積極的に促しており、外資系企業にとり工場建設を進めやすい環境にある。こうした中で、国内の各地で工業団地が造成中または稼働状態にあり、工場内にも様々な設備が建設されている。ただし、プラスチック製品の製造については、規制などにより依然として困難な状況にある。原料の輸入先なども含めて現地調査を続ける必要がある。

## 3.5 実証項目 4 バラの輸入販売拡大にかかる課題抽出、解決策の構築

### (1) 検証方法、活動内容

- ・エチオピア国内の既存仕入先農園と、新規仕入れ先候補のバラ農園を訪問。
- ・日本国内の取引先へのエチオピア産バラの紹介、展示会や各種イベントを通じたバラの販促活動の実施。

### (2) 結果

- ・昨年度の輸入量約 39 万本に対して、本年度は 12 月の時点で 100 万本を突破した。
- ・毎週定期的にバラの輸入を行っているが、11 月下旬に民族対立によって H 社からバラの出荷が出来なくなり、急遽 E 社にバラの出荷を依頼する事態が発生した。

### (3) 考察

- ・エチオピア産のバラに対する、日本国内における取引先の評価および一般消費者の認知度は、高まりつつある様に感じられる。また、日本国内のバラの生産量も減少傾向にある中で、今後エチオピア産のバラの需要は、さらなる増加が見込まれる。
- ・他方、エチオピア国内では、実証期間中に民族対立が発生し、これによる治安悪化を受けて予定していたバラの出荷が一時できなくなるなど、依然としてカントリーリスクがある事を確認した。より多くの産地およびバラ農園を仕入先として確保し、調達リスクの回避に努める必要性を確認した。

## 3.6 実証項目 5 切花の船便輸送にかかる課題抽出、解決策の構築

### (1) 検証方法、活動内容

- ・12 月下旬にバラの船便輸送テストを実施。

- ・リーファーコンテナと船便の手配を日本の通関業者に、バラの出荷を取引先農園の1つである H 社に依頼した。また、切り花の鮮度を保持しながら適切な採花・出荷作業を行うべく、作業の立会いと指導を花き品質管理専門業者である F 社に依頼した。
- ・ジブチーエチオピア鉄道の運転状況を現地関係機関に確認。

## (2) 結果

- ・12月20日に、約5万本のバラを積み込んだコンテナが農園を出荷。24日にジブチ港を出発。1月22日に横浜港到着、25日にインパック花加工場に到着し、26日から2月4日まで品質テストを実施した。
- ・到着したバラのうち、約6千本がボトリチス菌の感染による著しい劣化のため廃棄。残りのバラは感染していなかったが、大半の葉が乾燥などによる劣化を起こしていた。個人鑑賞には良いが、商品としては販売することはできない状態であった。
- ・劣化の原因として、鮮度保持に必要とされる資材を十分に用意できなかったことや、現地に乙仲が存在せず通関業者の関与が十分に行えなかったことでコンテナの到着が遅れ、F社の担当者が出荷に立ち会えず、十分な指導を行えなかった点が挙げられる。またコンテナ内に設置した温度計では、わずかな期間ではあるものの、コンテナ内の温度上昇が確認された。
- ・当初予定していた得意先へのサンプル出荷を断念し、従業員や市内の関係先への配布・配達に変更した。
- ・ジブチーエチオピア鉄道が2018年1月の始めに営業運転が開始したことをエチオピア国内の関係機関の連絡により確認。現在1日おきに輸出と輸入の貨物を輸送している模様。

## (3) 考察

- ・バラは通常30日間を越える輸送は不可能とされていたが、今回、35日間に及ぶ輸送テストを実施した。その結果、大量のバラの品質劣化を確認したが、鮮度保持に必要とされる準備などが十分に行えなかったこともあり、改善に向けて検討の余地が多数あることを確認できた。
- ・当初テストの実施を11月末に予定していたが、コンテナの手配遅れや、手配したはずのコンテナが実際は到着していないなど、出荷に至るまでかなりの混乱があった。今後現地への関与を徹底するとともに、余裕を持ったスケジュールを計画する必要性を確認した。
- ・ジブチーエチオピア鉄道は営業運転を始めたものの、リーファーコンテナの輸送を行えるかは未確認。改めて鉄道の情報収集を行う必要がある。

※2018年2月下旬に来日したE社社長のお話では、エチオピア国内にはリーファーコンテナが存在せず、同コンテナを使用する場合には、国外から手配しなければならないことや、ジブチーエチオピア鉄道は現状リーファーコンテナの輸送（電源を繋いで冷房を稼動した状態での輸送）は不可能であるとの情報を頂く。コンテナ手配の遅れは、国外からのリーファーコンテナを手配したために時間を要したことが原因として考えられる。また、鉄道を利用したリーファーコンテナ輸送の実現には、長い時間を要すると思われる。

### 3.7 実証項目 6 切花の品質向上にかかる課題抽出、解決策の構築

#### (1) 検証方法、活動内容

- ・バラの船便輸送テスト実施による長期輸送の品質調査
- ・花き品質管理専門業者である F 社の日持ち試験。

#### (2) 結果

- ・船便輸送テストを経たバラは、全体のうち約 6 千本が菌の感染により廃棄、そのほか大半が葉の乾燥などの劣化により商品としては価値が無かった。
- ・到着したバラの一部を F 社の試験室で日持ち試験を実施した。種類ごとに真水と栄養剤を入れた 2 種類の水に入れて試験を行った。結果としては赤色系統と黄色のバラは、ある程度の鮮度を維持したのに対して、白・ピンク系統のバラに菌の感染と劣化が見られるなど、種類によって結果が分かれた。

#### (3) 考察

- ・船便輸送での劣化を防ぐ方法としては、温度と湿度維持の徹底や、包装資材、梱包材、積み込み方法の改善、この他にプレクーリング設備の導入などが考えられる。

## 第 4 章 現地への寄与

- ・駐在員事務所の設立と工場の建設については、足元では事業規模が限定的であることや、現地治安情勢に多少の懸念が残っていることなどから、難しい状況にある。他方で、2015 年からスタートしたエチオピア産バラの輸入は、日本国内の量販店の評価と一般消費者の認知度の高まりもあり、2016 年度の 39 万本弱から 2017 年度 12 月の時点では 100 万本を超えた。2018 年度もバラの輸入販売の拡大が予想される。現状はバラの仕入先を増やし輸入販売を伸ばすことによって、エチオピア国内農園によりいっそう寄与しながら、駐在員事務所と工場の建設に向けて今後も調査と情報収集を継続して進出のタイミングを図る。

## 第 5 章 今後の事業展開と課題

### 5.1 今後の事業展開

#### (1) 現地における活動

- ・駐在員事務所開設に向けた調査と情報収集
- ・工場建設と原料調達先の調査と情報収集
- ・花の生産本数、スリーブ使用量の把握
- ・輸入販売の拡大に向けた新規仕入先バラ農園の確保
- ・エチオピア国内で開催される関連展示会の視察

#### (2) 日本国内での活動

- ・エチオピア産バラの拡売に向けての販促活動

- ・大使館、切花輸入業者、関係団体、エチオピア進出法人への情報収集

## 5.2 今後の課題

1. バラのコンテナ船便輸送の鮮度維持とコスト削減
  - ・テスト結果に基づく課題の検証と解決策の構築
  - ・輸送コストと経路の再検証
2. 駐在員事務所開設・工場建設に向けての情報収集
  - ・現地農園のスリーブ需要調査
  - ・エチオピア国内の関係機関への情報収集
3. バラの輸入販売の拡大に向けての活動
  - ・取引先に対するエチオピア産バラの販促活動
  - ・展示会・各種イベントへの出展による認知度の向上
4. バラの新規仕入先農園の開拓
  - ・安定供給に向けた新規バラ農園の獲得
5. 日本の品質に合わせたバラ農園の開発
  - ・現地仕入先農園に対する日本品質に準じたバラ生産の指導
  - ・上記品質を実現した農園との契約取引の開始

最後に、当初の主な目的でもあった駐在員事務所の設立とスリーブ工場建設は、現地治安情勢の悪化もあり情報収集以外の具体的な進展に至らず、2017年度の実証事業はバラの輸入販売の拡大と船便輸送テストの実施に重点を置く形となった。その結果バラの輸入本数は100万本を突破し、船便輸送テストは多くの課題を残し時期尚早の判断に至る結果となったものの、今回の事業の実施で様々な課題を得ることができたため、これらの経験を今後に生かしてまいりたい。

2018年度以降、バラの輸入販売をより一層進めて、3年後には年間1千万本以上を目指す。現状バラの輸入は、外国資本の農園が主な仕入先であるが、今後はエチオピア資本の農園との取引強化にも努めたい。また、フェアトレードの資格取得によって、日本でのエチオピア産バラの普及に取り組む方針。

そして、現状のバラを中心としたエチオピアの発展への貢献のにとどまらず、中長期的には上記の駐在員事務所の設立とスリーブ工場の建設・稼動によって、エチオピアの産業・経済・雇用の発展により一層の貢献に努める所存。

以上